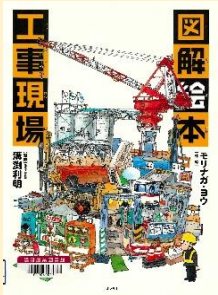


図解絵本 工事現場

モリナガ・ヨウ 作・絵／溝渕利明 監修／ポプラ社／2016年

首都高大橋ジャンクション、JR新宿駅南口、大保ダム、新東名高速道路など、実際の現場を取材し図解とともに解説。普段みることのできない建設現場の様子が詳細に描かれた絵本です。

しごとば　東京スカイツリー

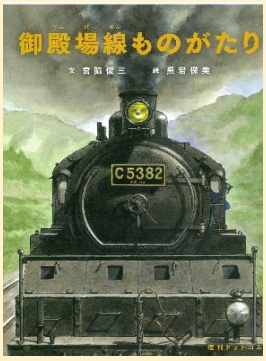
鈴木のりたけ 作／ブロンズ新社／2012年

東京スカイツリーはどのようにしてつくられたのだろう？設計士、鉄道員、現場監督と職人、溶接工や鍛冶工から、地元の人々まで。臨場感のある「しごとば」の様子とともに、東京スカイツリー建設に関わった人たちの姿を描いた絵本です。

だむのおじさんたち

加古里子（かこさとし）さく・え／復刊ドットコム／2007年

やまのおくのたにがわを、おじさんたちがのぼってきました。「なんだ、なんだ？」「なにしてるんだ？」ダムはだれがつくるのだろう。どうやってつくるのだろう。2018年に惜しまれつつ亡くなった絵本作家の加古里子が、幼稚園から小学校低学年の子供たちのために描いた絵本です。



御殿場線ものがたり

宮脇俊三 文／黒岩保美 絵／復刊ドットコム／2015年

国府津駅から箱根山の北側をまいて、御殿場駅を経て沼津駅へと続く御殿場線は、百年以上前の明治22年に東海道本線の路線として開通しました。当時は敵国の戦艦からの攻撃を避けるために、山側に線路がしかれたのです。

しかし、蒸気機関車は登り坂に弱く、鉄道を利用する人や物が増えるにつれ、やはり海側に線路が敷かれることになりました。こうして国府津から沼津までの山側の路線は、御殿場線と名を変えることとなり、現在でも運行を続けています。

その御殿場線の歴史を紀行作家の宮脇俊三さんと、元国鉄職員で当時の特急のヘッドマーク・ヘッドサインのほとんどを手掛けたデザイナーの黒岩保美さんの二人が手がけた、とてもわかりやすく、大人でも勉強になる絵本です。

いたずらのすきなけんちくか

安藤忠雄　原作 ／ はたこうしろう　 絵／小学館／2020年

「べんりじゃないもの。いっけんむだにおもえるもの。すぐにはこたえがわからないもの。そういうのがじつはいちばんおもしろい。」2020年にオープンした『こども本の森　中之島』を舞台に、黒い服を着た「けんちくか」のおじさんと子どもたちとの会話を通じ、建築家・安藤忠雄が建築への想いを伝える絵本です。

しぜんのかたち　せかいのかたち

建築家フランク・ロイド・ライトのお話

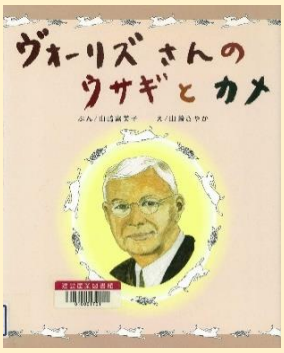
Ｋ．Ｌ．ゴーイング　文／ローレン・ストリンガー　絵
千葉茂樹　訳／ＢＬ出版／2018年

自然のなかにはいろいろな形がかくれている！そう気づいた少年は、やがて建築家になり、ハチの巣のような家、貝殻のような美術館、木のように高くてふとい柱をもつビルなど、自然をいかした建物を建てました。日本では旧帝国ホテルの設計などでも知られる建築家フランク・ロイド・ライトの物語です。

バウハウスってなあに？

インゴルフ・ケルン　文／クリスティーネ・レッシュ　絵　　バウハウス・デッサウ財団　編／白水社／2019年

芸術・デザイン・建築の学校だった「バウハウス」。そこでは何が行われていたのか、どんな生活をおくっていたのか。ドイツのバウハウスを訪れた父と子の会話から、ユネスコ世界文化遺産にも登録されたバウハウスへの理解が深まる絵本です。

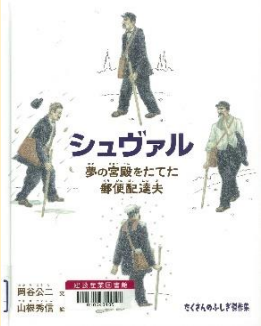


ヴォーリズさんのウサギとカメ

山崎富美子　文／山崎さやか　絵／上ヶ原文庫／2008年

「言葉や文字で教えるのではなく、住まいする環境が、そこで生活する人々を望ましい方向に導く」。住宅や学校、教会などの多くの建築を設計した建築家ウィリアム・ヴォーリズが、建築にしのび込ませた「ウサギとカメ」に託したメッセージとは？

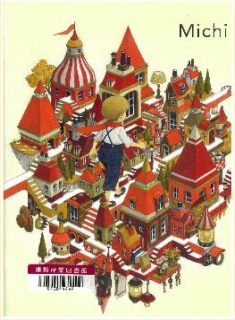
建設産業図書館



シュヴァル　夢の宮殿をたてた郵便配達夫

岡谷公二　文／山根秀信　絵／福音館書店／2003年

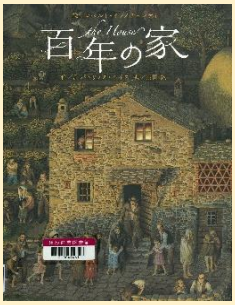
今から１４０年以上前、フランスの小さな村に住む郵便配達のシュヴァルは、毎日３０ｋｍ以上を歩いて手紙や荷物を届けるうちに、素敵な宮殿をたてることを思いつきました。そして、そこらに落ちている石ころを、たくさん積み上げ、３３年もの月日をかけて夢の宮殿を建てました。たとえ人には理解されなくても、自分だけの夢を成し遂げることは素晴らしい。そんな気持ちにさせてくれる人の物語です。この本を読んで、もっと彼のことが知りたくなったら、同じ岡谷さんが書いた『郵便配達夫シュヴァルの理想宮』（大人向け）に挑戦してみましょう。



Ｍｉｃｈｉ

ｊｕｎａｉｄａ／福音館書店／2018年

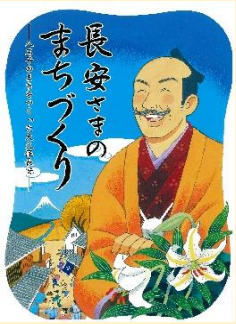
絵本というよりは、文字が一つもないので画集というべきですが、この本のとても面白いところは、左開きからでも、右開きからでも読み進めることができるところ。左からなら、男の子。右からは女の子が主人公で、本の中の不思議な街をそれぞれ進み、真ん中の頁のお城の中で、二人が出逢うという物語となっています。



百年の家

Ｊ．パトリック　作／ロベルト・インノチェンティ　絵／長田弘　訳／講談社／2010年

1656年に建てられ廃墟となっていた家が、1900年に再び建て直されて、そこに住む人びとの喜びや悲しみの歴史を、二つの大戦を経て100年にわたり、見つめていく物語です。



長安さまのまちづくり

八王子のまちをつくった大久保長安

吉田美江　文／長野美穂　画／揺籃社／2015年

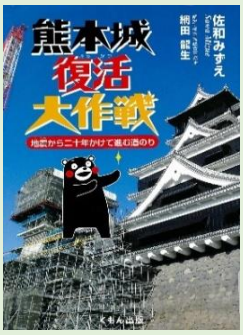
江戸時代のはじめに、大久保長安は徳川家康に認められ、全国の金銀山の取りまとめや、関東における交通網の整備などの一切を任されるほど出世しました。しかし、６９歳で死んだのちに罪に問われ、後の世では大悪人と呼ばれるようになりました。

しかし、一方ではとても優秀な技術者であり、先を見通すことも、人々の心を読むことも上手な人だったと言われています。この本では、八王子のまちづくりを命じられた長安が、豊かな町をつくるために行った、さまざまな工夫が紹介されています。

ぼくはこうして生き残った！　4　東日本大震災

ローレン・ターシス　著／河井直子　訳
ヒョーゴノスケ　絵／KADOKAWA／2015年

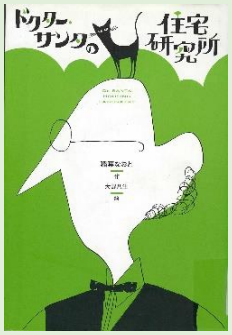
2011年3月11日、低学年の君たちが生まれる少し前。高学年や中学生の君たちは、もう覚えていないかもしれないあの時、大きな地震が東北で起きました。地震は津波を呼び、多くの人が犠牲になりました。君たちぐらいの年頃のアメリカ人の少年ベンは、亡くなったお父さんが生まれ育った町をたずね、その災害に巻き込まれました。言葉も通じない国で、どうやってベンは生き抜いたのでしょうか。アメリカで一千万部以上の売り上げを記録した災害児童書シリーズの東日本大震災版です。（ノンフィクションではありません。）



熊本城復活大作戦

佐和みずえ　著／網田龍生　解説／くもん出版／2020年

２０１６年４月に起きた熊本地震で、大きな被害を受けた熊本城。現在も続けられる修復作業の現場から、調査のなかで見てきた熊本城築城の秘密や、文化財を未来に伝える取組みを紹介し、復興へ向かう熊本城の姿を見つめます。



ドクターサンタの住宅研究所

稲葉なおと　作／大野八生　絵／偕成社／2010年

マンションの近くの深い森の中にある奇妙な建物「森の住宅研究所」。やってくる子どもたちにはそれぞれ悩みがありました。家を汚してお母さんに怒られる、家が狭いことが不満でお父さんとケンカしたなど、子どもたちの悩みをドクターサンタの不思議な贈り物が解決！住まいにとって大切なポイントが見えてくる物語です。

わきだせ！いのちの水
日本伝統の上総掘り井戸をアフリカに

たけたにちほみ　著／フレーベル館／2019年

発展途上国・難民キャンプに、きれいでおいしい「いのちの水」を！明治時代に生み出された日本伝統の「上総掘り井戸」の技術を応用し、安全な水を届けようと地域開発援助に尽力する大野篤志さんの活動を綴ったノンフィクションです。

日本の偉大な建造物！

歴史と人物でたどる　ドラマチックストーリー　1

北海道・東北編

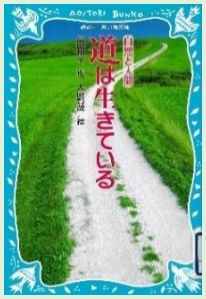
金田妙　作／洵　絵／教育画劇／2018年

日本各地に今もある有名な建物やダム・橋・トンネルなどの構造物にはそれぞれ建設された理由や、そこに関わった人たちの物語があります。札幌市時計台、青函トンネル、中尊寺金色堂、旧済生館本館、小岩井農場。これらがなぜ必要とされ、どのように建てられ、どうして今に残されたのでしょうか。本書は「北海道・東北編」ですが、他に「関東・東京」、「中部」、「近畿・四国」、「中国・九州・沖縄」の全5巻で全国をめぐるシリーズとなっています。

どろんこさぶ

長崎源之助　作／太田大八　絵／偕成社／1976年

老いた左官職人の昔語り風に、戦前の左官職について、紹介した児童文学です。小僧のときの生活の様子や、仕事のやり方まで、くわしく描かれています。作者のお父さんは、左官職人で横浜左官請負業組合長や日本左官業組合連合会の常務理事として、左官業のために努力しました。この本はお父さんの伝記ではありませんが、左官という仕事を通じて、あらためてお父さんのことを考えてみたい。そんな、作者の気持ちで書かれています。



道は生きている　自然と人間

富山和子　作／大庭賢哉　絵／講談社／2012年

陸の道、川の道、海の道、いつも使っている道…道は、いつできたのでしょう。どこまでつながっているのでしょう。それぞれの道のはたらきと歴史を辿り、道の未来を問いかけます。

ユンボのいる朝

麦野圭　作／大野八生　絵／文溪堂／2018年

小学五年生の幹は、自宅のマンションのベランダから見える、十階建てのビルの屋上で働くユンボ（ショベルカー）をいつも眺めていました。あんな高いところまで、あの大きい物をどうやって、運んだんだろう。ある日、幹はユンボの作業員の博巳さんと出会って…。
ユンボの見える風景の中で、幹や家族、友人たちの心の変化を描いた物語です。